

オーストラリア・スタディ・ツアー



学校教育課 66 1165

10月19日から、8泊9日の日程でオーストラリアへのスタディ・ツアー（市内中学2年生14人、引率3人）を実施しました。

行き先のメルボルンは、春真っ盛り。街路樹のガムツリー（ユウカリの木）は、街のあちこちでさわやかな香りをはなつていました。

期待と不安のホームステイ。温かく迎えてくれたホストファミリーとは、笑顔と勇気と片言の英語で一生懸命コミュニケーションしました。

『ホストファミリーと仲良くできるか心配でしたが、お父さんやお母さんは私を娘のように、おばあちゃんや孫のようにかわいがってくれました。ステファニーとはけん玉や折り紙など日本の遊びで仲良くなりました。お別れの日は泣いてしまいました。彼らは私の大切なオーストラリアの家族です。』

（大塚中 杉浦みさき）

『ホームステイ中は、ちょっと風邪気味で、ホストマザーのターニャさんにはとてもお世話になりました。せきがひどく、スーパーマーケットで、のど薬とのどあめを買ってもらいました。本当の家族

のように心配してもらったことがとつてもうれしかったです。ホームステイは、今までの私の人生の中で一番の体験となりました。』

（形原中 山崎楓子）

『最も心に残ることは、お別れパーティーで僕の14歳の誕生日を祝ってもらったことです。今年の誕生日のお祝いはいくらもしていたのに。チョコレートケーキのろうそくを吹き消したときはもう最高。その時、僕はウツズ母さんの3番目の息子になっていました。サンキュウ！』

（塩津中 奥村尚平）

『僕は奥村君と同じ、ウツズファミリーにお世話になりました。風邪をひいてしまったので、看護婦さんのウツズ母さんとはとても心配して、勤務先の病院につれていくてくれました。おかげで週末は思いつき楽しむことができました。日本からの子どもを心から大切にしてくれたウツズ母さん。僕はあなたの4番目の息子になりました。』

（中部中 荘田徹也）

『ホームステイ前は、「ホストファミリーと会うのが楽しみだね」と言っていました。実際に会ってみると、とまどうことばかりでし

た。2日目くらいまでは、「まだ3日もある」と思っていました。が、ホストファミリーとの生活に慣れてくると、「もう1日しかない」という声ばかり。5日間は短すぎる、これが正直な思いでした。たくさんさんの失敗をして、一回りも二回りも大きくなった自分を見つけることができました。』

（西浦中 小田真大）

何もかもがでっかいオーストラリアでのたくさんの体験。お別れパーティーでは、日本のあやとり・けん玉・剣道などを紹介。二つの国の文化に触れて、改めて日本の良さを見つけました。

『このツアーは「すべて英語だし、食べ物も違うし…」という不安から始まりました。ケアンズで食べたカンガルとワニの肉は驚きの一言。ホストファミリーの家に着いた時は「早く帰りたい」と不安は最高潮。でも、少しずつ相手が何を言っているのがわかるようになり、最後には「もう帰るの？」と思っていました。お別れパーティーの司会も英語でばっちり。「うまかったよ」と言われた時は、とつてもうれしかったです。』

（三谷中 木村陽子）